

リーディングDXスクール事業【実践事例】

さいたま市立美園南中学校（埼玉県）

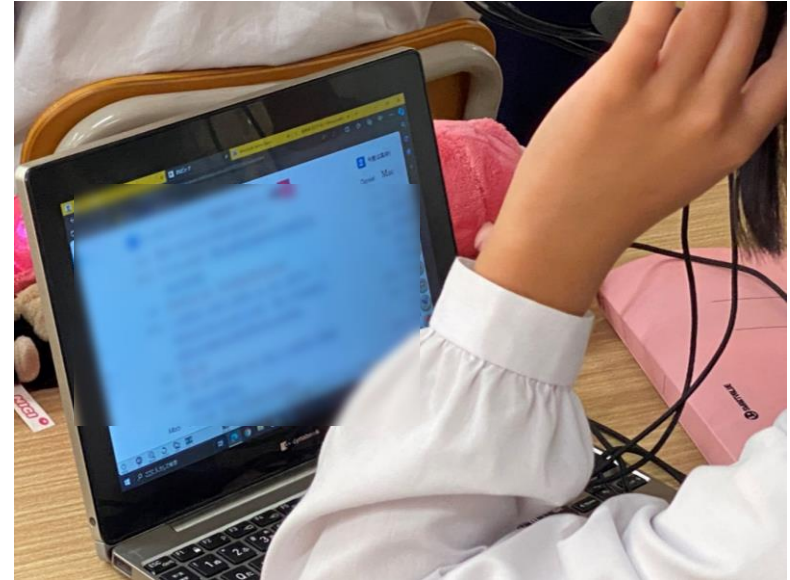
【取組内容①】「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」

○グローバル・スタディ科における取組

グローバル・スタディ科とは、さいたま市で2016年度より、すべての小・中学校で開始している、本市独自の英語教育です。小学校1年生から中学校3年生までの9年間で、一貫したカリキュラムの下で、「聞く」「話す」「読む」「書く」4つの技能をバランスよく学び、将来、グローバル社会で主体的に行動し、たくましく豊かに生きる児童生徒を育成することを目指している。

本校2年生のグローバル・スタディ科では、Microsoft TeamsのReading Progressを活用した「話す」ことのトレーニングを実施しており、生徒がタブレットに向かって読み上げた英文を、AIによって発音等が認識され、英文と発音の差異を視覚的に繰り返し学べるようになっている。生徒個々の「話す」技能をICTを活用して高めることができ、練習回数の増加だけでなく、視覚的にわかることによる意欲の向上が見えられた。

国策により英語の学習者用デジタル教科書が使えるようになってきていることから、学習者デジタル教科書の発音を聞き、Reading Progressで練習を繰り返すことをしている生徒が増えてきている。



○数学科における取組

2年生の数学科において、Microsoft Teamsのクラスチームでのみ利用できる「授業」機能を活用し、全単元の授業用PowerPointをPDF形式で生徒が、自分が必要とするタイミングで利用することができ、予習や復習を生徒自らが調整して取り組むことができ、また、授業においては左の写真のように、個別・ペア・グループ・ディスカッションによって練習問題に取り組んでいた。ディスカッションは黒板前でやっているが、この会話を個別やペア等の他の方式で学習している生徒も聞き耳を立てており、必要に応じて移動して取り組んでいた。

